

# イチゴの カルシウム欠乏 対策に！！

## 体質強化！食味向上！



【硫酸カルシウム】



# カルゲン®

【粉状・粒状】 15kg入り

## イチゴ栽培の特長

- ◆ 土壌の適正 pH は 5.5～6.0 位の弱酸性を好む
- ◆ 水分管理の良否は栽培上（生育・果実の肥大・着色）、重要なポイントとなる
- ◆ 肥料の吸肥力が強く、カルシウムの要求量も大きく、特に生育中期～後期にかけてカルシウムの要求量は更に増大する
- ◆ カルシウムの効果でチップバーンの対策や食味（糖度）・鮮度保持に期待がもてる

## カルゲンとは・・・

- ◆ カルシウムとイオウが結びついた石膏（農業用石膏）を主原料に製造した特殊肥料
- ◆ 酸性のカルシウム肥料ですから土壌の pH が上昇することなく、連続施用することで土壌を団粒化して、有効微生物の繁殖を促す
- ◆ 石灰類（炭カル）に比べ約 170 倍水に溶けやすく、作物に吸収されやすい水溶性のカルシウム肥料
- ◆ 作物が健全に生育するために必要なカルシウムの養分補給に最適
- ◆ 特に、窒素過剰による生育障害（徒長・軟弱）を軽減（拮抗作用）

## 養分吸収量（収穫 1 トン当たり） kg

チッソ N	リン酸 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	カリ K <sub>2</sub> O	カルシウム Ca	マグネシウム Mg
3.1	1.1	4.1	2.6	0.9

## カルゲン施用量（当社推奨基準）

	施用方法	施用量	備考
元肥	全面土壌混和	3～5袋/10a	定植前（他の肥料と同時施用）
追肥 1回目	畝間施用	2袋/10a	マルチング前に施用
追肥 2回目以降	土壌灌水・葉面散布 （ネオカル水和剤又は カルゲンβ液剤）	土壌灌水 1～2kg (ℓ) /10a 葉面散布 100～150ℓ/10a	着色開始頃より 10～14日置きに散布又は灌水 気温の上昇に伴い散布又は灌水 の間隔を7～10日に狭める

☆ 上記の施用量は標準です。土壌診断を基準に施用量を増減してください。

☆ 酸性土壌の場合は石灰類等を加用してください。

☆ 詳しくは、お近くの販売店または営農指導員の方へお尋ねください。

《総販売元》



吉野石膏販売株式会社